

名家連ニュース

平成 28 年 5 月 10 日 (火)
発行：特定非営利活動法人
名古屋市精神障害者家族会連合会
会長 堀場 洋二
TEL/FAX(052)411-2890 NO.406号

九州・熊本大震災 他団体からの現地情報

- ① 前震が「4月14日(木)21:26 震度7、M6.5」本震が「4月16日(土)1:25 震度7、M7.3」、あいつぐ余震「1,295回(5月7日現在。)」
- ② 5月7日現在。死亡「49人」、震災関連死「18人」(エコノミー症候群が原因の方も)、行方不明「1人」重軽傷者「1,648人」。全壊・半壊・一部破損「65,021棟」、避難所「26市町村・355カ所」、避難者「14,330人(最大で18万人)」、断水「8,400世帯」
- ③ ハンセン病元患者の暮らす「菊池恵楓園」(熊本県合志市)の支援急務。272人が生活し、平均年齢は83.57歳。納骨堂では骨壺(150個~200個)が散乱。職員の多くが被災し470人中、避難所生活や車中泊を続ける職員が50人を超える。敷地内に一時避難した近隣住民も。
- ④ 車中泊を続ける理由。屋内が怖い、避難所のストレス、ペットがいる、避難所がいっぱいだった、子どもがいる。心に与える影響は？眠れないが60%。夜になると不安になる、怖くて一人でいられない、イライラする。
- ⑤ 27日現在、熊本県の公立小学校・中学校から525人が他県に通学手続きを行った。5月10日に殆どの小・中学校・特別支援学校の再開予定だが、被害の大きかった西原村では再開のめどは立っていない。
- ⑥ 福祉避難所・27日現在で41施設・207人が利用しているが、利用希望で待機中が21人。熊本市は福祉避難所設置協定を176カ所、約1,700人の受け入れを想定していた。
- ⑦ 30日。赤紙「危険」と判定され、倒壊の恐れがある建物が熊本県内で12,013棟となり、東日本大震災の11,699棟を超え、さらに増えている。
- ⑧ 子育て家庭の避難所生活への配慮。「夜泣きが気になり車中泊・テント生活」、女性への避難所生活の配慮。「更衣室が無く布団の中で着替え」「生理用品や女性用下着が男性から配られ、受け取りづらい」
- ⑨ 認知症の方への避難所生活への配慮。避難所から一人で出ていってしまい約4キロ離れた場所で保護。
- ⑩ 熊本学園大学でバリアフリーに対応したホールを高齢者・障害者の避難所として開放。最大50名が利用。この避難所では、学生や理学療法士・福祉施設職員がボランティアとして活躍。
- ⑪ 高齢者施設・障害者施設の職員の状況。通常でも人手が足りない中、新たな避難者対応も休みを取らず行わざるを得ない。施設長は「職員は気力、体力とも限界」。33施設が介護職員127人不足。障害者支援施設では5施設・30人が不足。児童養護施設では3施設・10人が不足。
- ⑫ 避難所に避難した知的障害を伴う自閉症の男性(22歳)。避難所では落ち着きを失い、ぴよんぴよんと飛び跳ねた。「ここは無理だ」と母親は1時間で避難所を出て車中泊を5日間続けた。



- ⑬ 熊本市民病院(東区)の総合周産期母子医療センターが損壊したため、年間150人近く、高度な医療措置が必要とされる妊婦や新生児の受け入れが困難にあり、福岡県等への県外搬送が必要。全国的に産科医、新生児集中治療式の不足が慢性化、九州全域への影響も懸念。
- ⑭ 地震の影響で、水俣病の原因企業・チッソの廃棄物処分場後と不知火海を隔てる市道が崩れる恐れが強まり、水銀を含む土が流出する懸念があり、警戒を強めている。